

# 大森陽子の フレッシュ便

## 子育て応援・暮らし第一をめざして



2012年5月1日発行 土佐市蓮池337-15 電話 852-4551 大森陽子

特老建設が第5期介護保険計画に盛り込まれました。入所待ちが緩和されそうです。よかったですね！



### 私のJGJN

昨年の夏、福島の災害ボランティアから帰ってすべ、「福島」野菜を送る会（会長・徳平英龍さん）を立ち上げていただき、南相馬市の学校給食に六回、大根六〇〇キロ・白菜四〇〇キロ・キャベツ五〇キロ、さつまいも五〇キロ、カボチャ五〇キロを「このよき縁ができた避難住宅」に二回、大根五〇〇キロ・白菜一〇〇キロ・キャベツ一五〇キロを、ボランティアセンターに二回、大根三〇〇キロ・白菜一四〇キロ・米三〇〇キロをお送りすることができました。

これも野菜作りボランティアのみならず、さつまいもやカボチャ、お米を提供してくださった方々、トラックで田んぼを耕したり、管理機で畝を作ったり、「いま」協力くださった方たちについて「このよき縁」です。

今年も、学校給食は材料の調達ができるようになり、避難住宅やボランティアセンター、また、東京でホームレスさんの支援をしている教会、土佐市の作業所などに提供したいと皆で相談し、シャガイモやカボチャの植え付けをしていきます。

畑で会えば楽しい仲間。あなたも参加しませんか。

### 三月議会を振り返って

最近、市議会議員をやらせていただいて本当に良かったなあ、しみじみ思います。市民の皆さんの声を議会に届けるために一生懸命議会質問に取り組みますが、一発で解決することはほとんどありません。しかし、角度を変えて何度も何度も必要性を訴えておきます。市長はじめ執行部の皆さんへの理解が広がり、少しずつ実現していることを実感しております。

また、教育環境もぜひ改善されたいと思います。十数年前、先生方から土佐市の教育環境のひどい話を聞かされたことが多かったのですが、最近

では、学校図書費や教材費が他市町村より充実しているとお聞きするようになったの嬉しいかぎりです。板原市長は特に教育に子育てに熱心でしたが、さらに安全なまち作りに対して、本気で取り組む姿勢を明確に打ち出してきたように思います。

### 三月議会報告

#### 特老建設がいつにも実現予定

第五期介護保険計画に、特老一九床と、六〇床が盛り込まれ、三年後までには実現の見込みとなりました。議員になって六年間、求め続けた課題であり、本当によかったと思います。

六〇床の特老は、南海地震で津波被害が予想される宇佐または新居地区に建設し、福祉避難場所としても活用できるように求めました。

#### 月額一百万円の給付型奨学金に

##### 四〇人の応募者

何度も提案して、やっと実現した給付型奨学金制度に、今年度は四〇人の応募がありました。三月三十一日締め切りで、五月確定

昨年は追加募集してもわずか五人しか利用者がいませんでしたが、厳しい成績基準の緩和（平均四以上を「おおむね四以上」とする）や、在学生も応募できるように求めた結果と、教育委員会も熱心にお知らせに努めたためだと思います。八〇人分の予算を取っています。来年もチャレンジしましょう。県下で香美市と土佐市のみの制度です。

#### 住宅耐震化に百十万円

住宅耐震化工事に、国・県の補助金九十九万円、土佐市単独で二十万円が上乗せされました。

※二十万円の上乗せは条件あり。費用の二〇％・上限二十万円です。

### 学童保育が充実

地震がきたら一発で壊れそうな第一小学校の学童施設（兼山神社）が、小学校の空き教室を整備して利用できるように予算化されました。

専用施設がなく、蓮池「ミニセンター」を利用して不便をおかしていた蓮池小学校の学童も、四月より施設を整えた蓮池小学校の空き教室に移ることができ、喜ばれています。いずれも提案して二年間を要しました。

### 小中学校の教育環境整備を

#### 劣悪な環境の教室に冷房設備実現

昨年の九月議会でも提案しましたが、早くも実現予定です。保健室など特別教室は昨年度中に設置され、教室の南北が壁で朝日と西日が差し込む劣悪な環境の教室（蓮池小学校）に、冷房設備を設置する予算が提案され採択されました。

#### 中学校へもデジタル教科書を導入

小学校で実績を上げているデジタル教科書を、中学校でも採用するよう求めておりましたが、今年度予算化されました。しかしこれにも長短があります。利用は押しつけではなく、先生方の自主性に任せて有効的な活用を図るべきです。

### 市民公園（トンボ公園）の整備

今年度中に整備される予定です。トイレの悪臭からも解放され、子供から高齢者まで憩える公園に生まれ変わります。提案して二年目の実現です。楽しみですね。



# 「声ひびくば」

## 投稿集

### 犠牲者ゼロに学び

「30県の保育所は津波で壊滅的な被害を受けながら保育中の犠牲者はゼロだった」という記事を見て、驚きました。インターネットでも調べてみたのですが、確かに保育中の犠牲者の記事はありません。そして、岩手・宮城・福島「保育所」犠牲ゼロ！保育士たちの周到な準備と迅速な対応、ワンダッシュ通信簿などの着せました。

「この中で奇跡的な避難が出来たのは、30の避難鉄則を実践したからだと思います。」「うち早く逃げ」「避難場所・ルートは自ら書き添えておく」「たとえ津波が来なくても避難する」ということです。犠牲者がゼロだったのは「奇跡」だったのではなく、保育士たちの「努力」のたまものだったとありました。月に一回、避難訓練をしていたのです。

今回の震災で私たちが学んだのは、「大きく揺れたら逃げる」ということでした。しかし、逃げるのが難しい人々がいます。保育園児、障がいがある方達、高齢者、あるいはその方たちに携わっている人々です。

逃げたいけど逃げないのが出来なくて、この方たちをどうやって救うか。そして音声が聞こえませんでした。2万人を超える東日本大震災でも、保育中の園児に犠牲者はいなかったのです。このように学びたいと思います。

### 原発事故、福島の叫び

8月5日からの一週間、災害ボランティアとして福島県南相馬市に行ってきました。途中、山間の小さな村ながら、持続可能な村作りをこのところ丁寧にするめてきた飯舘村を通過しましたが、そこは放射線量が高いため、全村計画的避難区域に指定され人影は見えず、まるで「ノースタウン」のようでした。

また、私たちが向かった南相馬市は福島原発事故から20キロ内の立ち入り禁止区域で、30キロ内の緊急時避難準備区域と30キロ圏外で規制のない地域に分かれています。

事故以来、現地の求めに応じて学校給食に何度か野菜を送っていただきましたので、主任栄養士さんに今後の要望をお聞きしたり、お預かりしてきたカボチャや玉葱、シヤガイモやキクラゲ、鯉節をお届けしたり、仮設住宅で暮らす皆さんや、原発事故のために県外へ避難していた方達、商店街の皆さんへの聞き取り調査などを実施しました。

ここでは放射性物質への強い不安のため、若いお母さんの多くが子どもを連れて避難されている方が多く、家族がバラバラで暮らしています。人口が流出している現地では商店も成り立たず、原発事故の特殊性のために復旧もままなりません。「1日も早い除染を」「福島にもつ原発はいつか」といって皆さんの声は、心の叫びのように胸に突き刺さりました。そして、私たちに出来る支援は何か、考えねばならぬと思います。

### 胸を打ったこの記事

私の1日は、新聞「田」を通すことから始まりますが、10日の本誌朝刊を見て胸を熱くしました。1つは、「福島・都内アテナ店」の盛況を伝える記事と、もう一つは「落雷事故の北村光俊君」が頑張っている様子を伝えるニュースです。

前者は、4月のある日、一人の女性客が「生産者を応援しよう」と色紙に寄せ書きを呼びかけると、他の人たちも続き、農家への応援や感謝の言葉があふれ、来店者数、売り上げとも例年の4倍になったという記事です。関係者は「ほぼ1週間受けられたかと思えば、胸がいっぱいになりました。」

そして後者は、落雷事故で生死をさまよった、奇跡的な生還を遂げた北村光俊君が、高知短期大学の学友に支えられ、勉学とともに「ハッピー」に励み、スクールカウンセラーを目指して頑張っているというニュースです。自分の力一杯に生きようとする彼を、彼を支えている学友たちの行動に、目を熱くしました。

人間って、支えたり、支えられたりしながら、お互いに元気をもらうのだなく、あらためて思ったことです。

新聞は真実を伝えるために「勇気を持って欲しい」、そして様々な暮らしを報道して欲しいと願っている私は、この二つの記事に大きな感動を頂きました。ありがとうございます。

### 福島に野菜を送ろう

8月、災害ボランティアとして福島県南相馬市行っていた私たちは、学校給食に野菜を送ろうと相談しました。給食に福島の野菜を使わないようにという母親達の願いに、現場の栄養士さんが苦慮していたのです。

私は毎年、お借りした2反の田んぼのうち、半分を千枚漬けを作るための無じ、キムチ作り用の白菜や大根などと一緒に栽培してきましたが、今年はその反全部で野菜を作り、南相馬市の学校給食に届けたいと、野菜作りの師匠に相談しました。

師匠は「コシやろ」と、早速「福島に野菜を送る会」を立ち上げて下さり、大根、白菜、キャベツ、ブロッコリー、玉葱などを、多くのボランティアの皆さんの協力を得て栽培しておきます。畑で会うのが楽しみの中です。

ところで、原発の危険性を訴えてこられた京大の小出裕章氏は、「安全な被曝は存在しない」「学校給食などは、徹底的に安全にこだわらなければならぬ」「しかし、放射線に対する感受性は50才になると劇的に低下する」「被害を福島の人たちだけに押しつけてはならない」と、訴えておられます。

50才以上の私たち、福島のリンゴや桃も食べて支援をしようではありませんか。そして高知には休耕田がたくさんあります。あなたもこんな活動、始めてみませんか。

### 給付型奨学金制度を

土佐市では23年度の高校以上の入学生に対して、年額12万円の給付型奨学金制度が創設されましたが、これを利用した方は5人しかおりませんでした。

した。成績基準が4以上であり、入学生のみに限られていたこと、お知らせが不十分だった事、及び所得基準が解りにくかった事が原因だと思います。そしてこの度、制度が大幅に改善され、成績基準は「概ね4以上」となり、在学中の方も利用できるようになり、カックであった募集人員も18名から予算の範囲内となって、現在教育委員会は800名分の予算要求をしております。

所得基準は生活保護基準の1.5倍以内。家族構成にもよりますが高知県の平均所得の「家庭であればクリア出来ることです。社会保障費や生命保険料の控除などもあります。借家の場合は家賃控除もあつきます。そして、他の奨学金制度と重複して受けることも出来るのです。

就職氷河期の現在、学校は卒業したが就職できず、貸し付けの奨学金を返還できず、若者は困難を抱えています。

子供は地域の宝。家庭の経済力によって学力に差が生じたり、学びたくても進学できないことは社会の大きな損失です。

世界の先進諸国であるOECD加盟30カ国へ、給付型の奨学金制度が無いのはアイスランドと日本だけ。3年連続、文科省の予算要求を財務省は認めませんでした。

